



## 第36回全国稲作経営研究会を開催！

全国稲作経営者会議（平石博会長）は、3月5・6日、AP 東京八重洲通り（東京都）にて、第36回全国稲作経営研究会を開催した。約120人が参加した。

テーマは「10年後を見据えた水田農業の経営戦略」。1日目は、岐阜大学の荒幡克己教授が「コメの生産調整見直し（30年問題）について」と題し、基調講演を行った。続いて、事例発表を実施した。発表者は、業務用・実需者ニーズに応じた多品種栽培に取り組む(有)内田農場・内田智也代表（熊本県）と子実用トウモロコシの栽培に取り組む(株)柳原農場・柳原孝二代表（北海道）、基本技術とICTを駆使した低コスト大規模農業経営を展開する(有)フクハラファーム・福原悠平代表（滋賀県、会員）の3人。



内田智也氏

その後、荒畑教授がコーディネーターを務め、事例発表者3名に平石会長を加え、大会テーマである

「10年後を見据えた水田農業の経営戦略」についてパネルディスカッションを行った。



柳原孝二氏

2日目は、平成30年産米の状況について、説明が実施された。「業務用米の状況について」を(公社)日本炊飯教会・三橋昌幸事務局長が、「先

物取引について大阪堂島商品取引所・浅井良真業務部係長がそれぞれ解説。その後、賛助会員による展示ブースの説明があり、最後に農機メーカーとの意見交換が行われた。進行は青年部顧問の横田修一氏。パネリストとして賛助会員より(株)クボタ、ヤンマーアグリジャパン(株)、井関農機(株)の3社が登壇した。



福原悠平氏

なお、今年度の稲作経営者現地研究会は7月5・6日に愛知県で開催される。

第36回全国稲作経営研究会	1
子実用トウモロコシの有用性（第36回稲経研究大会から）	2
第47回全国農業経営者研究大会	2
稲経・経営技術研究会（第1回）	2
消費税の軽減税率制度への対応	3
第35回若い稲作経営者研究会（冬季）	6
平成30年度事業計画（案）	6
いなけいニュース	8